平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月5日

上場会社名　株式会社ユニバーサルエンターテインメント　　上場取引所　大
コード番号　6425　URL　http://www.universal-777.com
代表者　(役職名) 代表取締役副会長　(氏名) 北畠　光弘
問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室　広報・IRチーム部長　(氏名) 工藤　正尚　TEL 03-5530-3055
四半期報告書提出予定日　平成22年11月5日
配当支払開始予定日　—
四半期決算補足説明資料作成の有無　:　無
四半期決算説明会開催の有無　:　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	11,491	△43.2	△2,399	—	△2,465	—	△3,605	—
22年3月期第2四半期	20,220	90.9	3,443	—	1,411	—	787	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	△45.24	—
22年3月期第2四半期	9.85	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	139,321	120,009	86.0	1,504.41
22年3月期	144,616	127,314	87.9	1,596.03

(参考) 自己資本　23年3月期第2四半期　119,878百万円　22年3月期　127,178百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00			
23年3月期(予想)			—	—	—

(注)当四半期における配当予想の修正有無　無
平成23年3月期末の配当予想については未定としております。

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,400	22.5	6,100	14.2	6,100	430.0	4,100	△78.0	51.45

(注)当四半期における業績予想の修正有無　無

4. その他　（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動　無

新規　―社　（社名　　）、　除外　―社　（社名　　）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用　有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更　有

② ①以外の変更　無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期2Q	80,195,000株	22年3月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	23年3月期2Q	510,477株	22年3月期	510,405株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期2Q	79,684,572株	22年3月期2Q	79,934,605株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続きは終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

１．当四半期の連結業績等に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．その他の情報 …… 4
（１）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 …… 4
（２）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 …… 4
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8
（５）その他注記事項 …… 8

１．当四半期の連結業績等に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、急激な円高により、これまで景気回復を牽引してきた輸出業は伸びが徐々に減速しており、業況先行きに懸念が高まっております。また、デフレの影響や雇用情勢の悪化懸念も残っており、雇用・所得環境は、引き続き厳しい状況が続いています。世界経済においては、回復テンポは緩やかとなるもののアジア・新興国を中心に回復傾向が続くものと見られます。

当社グループの主力事業のひとつであるパチスロ・パチンコ事業においては、射幸性の高いMAXタイプのパチンコ機を中心に煽り営業の限界から客離れの動きが見られ、パチンコ機の設置台数は減少に転じる一方で、パチスロ機が見直され設置台数は増加に転じつつあります。

そのような環境の中、当社グループは当第2四半期連結累計期間においてパチスロ機３タイトル、パチンコ機１タイトルを市場投入し、合計約２万７千台を導入いたしました。なかでも、８月に市場投入いたしましたパチスロ機『デビルマンⅡ悪魔復活』は初回ロットが完売となり、追加受注も含めて計約２万台の導入となりました。またパチンコ機『CRミリオンゴッドプレミアムＶ』を市場投入し、初回ロットが完売するなど好評を博しました。

しかしながら、第１四半期に発売したパチスロ機『とんでも戦士ムテキング』の販売が当初計画を大きく下回ったことより、第２四半期でのパチスロ機『デビルマンⅡ悪魔復活』等の順調な売上げによっても第１四半期の販売不振をカバーするには至らず、当第２四半期連結累計期間における売上高は11,491百万円（前年同期比　43.2％減）、営業損失は2,399百万円（前年同期　営業利益3,443百万円）となりました。

また、当社グループが筆頭株主として約19.9％の株式を保有する持分法適用関連会社ウィン・リゾーツ社（NASDAQ:WYNN）の業績は、マカオのカジノ市場が引き続き好調に推移していることを背景として、平成22年１～６月期において、少数株主持分控除前純利益146百万米ドルを計上しました。これより、ウィン・リゾーツ社の少数株主利益を控除し、同社による過去の自己株買いに伴う評価の洗替えによる償却（四半期あたり約７億円）を調整後の当社グループの持分法による投資利益は22百万円となりました。これらに支払利息等を加減した結果、経常損失は2,465百万円（前年同期　経常利益1,411百万円）となりました。なお、フィリピンにおけるカジノプロジェクト「マニラベイリゾーツ」において設計変更を行ったため、使用予定のない設計資産を償却し、特別損失を1,046百万円計上しました。これらの結果四半期純損失は3,605百万円（前年同期　四半期純利益787百万円）となりました。

なお、セグメントの業績は以下の通りであります。各業績数値はセグメント間売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

①パチスロ・パチンコ事業

当第２四半期連結累計期間においては、パチスロ機３タイトルを投入しております。

８月には、アニメや映画等各種メディアにて人気を博した永井豪氏原作の大ヒットアニメ『デビルマン』の版権を使用したパチスロ機『デビルマンⅡ悪魔復活』の投入を行いました。

この商品は、市場から高い評価を得ることができ、初期ロットは、発売開始時に即時完売となり、その後市場およびプレイヤー様からの多くのご要望にこたえ、２次ロットの生産および販売を行いました。

またAPEC開催に伴うパチスロ・パチンコ機の一時的な入替自粛の影響から『出番だ！葉月ちゃん』も一部の地域に先行導入しておりますが、全国販売は10月からとなっており、全体としては第３四半期以降の売上となります。

これらのことから、当第２四半期連結累計期間のパチスロ機の導入台数は約２万４千台となりました。

またパチンコ機としては７月に、『CRミリオンゴッドプレミアムＶ』の販売を行いました。この商品も多くの店舗様から高い評価をいただき、完売することができました。

これにより、当第２四半期連結累計期間のパチンコ機の導入台数は約３千台となりました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間におけるパチスロ・パチンコ事業の売上高は、10,339百万円（前年同期比45.1％減）、営業利益は614百万円（前年同期比　89.9％減）となりました。

②その他

当社グループのメディアコンテンツ事業を担うアルゼメディアネット株式会社では、『アルゼ王国』『スーパーリアル麻雀』両サイトにおいて、個別課金用のアイテムを充実させサービス向上に注力してまいりました。iPhone向けのアプリケーションでは２本目となる『サンダーＶ』を７月に配信し好評を得ております。

パチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチテレ！」を提供する日本アミューズメント放送株式会社においては、同チャンネルが日本最大のＩＰＴＶサービス「ひかりＴＶ」へ導入されることが決定し、配信を開始しました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間におけるその他の売上高は、1,394百万円（前年同期比　15.3％減）となりました。なお、フィリピンでのカジノプロジェクト「マニラベイリゾーツ」において準備費用が発生したため、営業損失は341百万円（前年同期　営業損失5百万円）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期末における総資産は、139,321百万円（前期末比5,295百万円減）となりました。主な増減要因は、現金及び預金が1,896百万円増加したものの、原材料及び貯蔵品が1,978百万円、投資有価証券が2,466百万円減少したことなどであります。

負債は19,311百万円（前期末比2,009百万円増）となりました。主な増減要因は、短期借入金が2,664百万円増加したことなどであります。

純資産は120,009百万円（前期末比7,304百万円減）となりました。主な増減要因は、株主資本のうち利益剰余金が3,605百万円、株価や為替などの変動から生じる評価・換算差額等が3,695百万円減少したことなどであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

①パチスロ・パチンコ事業

第３四半期においては、12月導入予定の大型タイトル『緑ドンVIVA！情熱南米編』の販売活動を開始しております。前作である『緑ドン』は平成21年５月に市場投入いたしましたが、それまで４号機から５号機に移行し縮小を続けていたパチスロ市場において、広くパチスロ機の見直し・拡大に繋がる画期的な機械となりました。

『緑ドンVIVA！情熱南米編』は前作の特性をさらに大幅にパワーアップさせた後継機であり、業界初のタッチセンサー式役物も搭載させた最新の機械です。

10月に行いました各地の展示会はかつてないほどの多くのご来場者で大いに賑わい、ホール様や業界関係者の方々からご好評をいただきました。すでに初期ロットにつきましては完売状態となっており、第２次ロット以降の追加生産について部材手配を含めて検討しております。

これに加え、前述の通り、一部９月に先行導入したパチスロ機『出番だ！葉月ちゃん』の販売を継続しております。またパチンコ機『CRミニオンゴッド』の販売も行い、現在すでに完売となっております。

また第４四半期につきましても複数のタイトルを投入する計画です。

②その他

アルゼメディアネット株式会社では、当社グループが持つ資産のみならず、幅広いコンテンツを扱うプロデュース企業として、積極的な事業展開を図り引き続き売上拡大を目指してまいります。なかでも、下期においては『スーパーリアル麻雀』の新コンテンツ『Newスーパーリアル麻雀(NSRM)』の開発・制作を行い、展開して行く予定です。

日本アミューズメント放送株式会社においては、放送業界のみに依存しない方針を立てており、その一環として第３四半期並びに第４四半期にスマートフォンやＰＣでのサービスの立ち上げを予定しております。他にも番組データのアーカイブ化なども進めており、パチスロ・パチンコに関わる様々なエンターテインメントサービスを提供する企業を目指し、新規事業の立ち上げ及びそれらに必要な投資を積極的に行ってまいります。

当社グループが、株式の約19.9％を保有し筆頭株主となっているウィン・リゾーツ社はラスベガス及びマカオにおいてハイエンド向けカジノリゾートを運営しておりますが、ラスベガス・ストリップ地区の月間カジノ売上高は、前年に比較して増加に転じる月も見受けられるなど底打ち感が見られます。しかしながら、リーマンショック以前と比較すると未だに厳しい状況を抜け出したとは言えません。

一方、マカオにおいては、ハイローラー向けの売上高が引き続き好調であり、今年においても、幾度も過去最高月間カジノ売上を更新し、引き続き活況を呈しております。

ウィン・リゾーツ社では、本年4月にマカオで新たにオープンした『アンコール・アット・ウィン・マカオ』や『ウィン・マカオ』の売上が業績へ大きく貢献すると見込まれます。

また、NASDAQ市場に上場されている同社の株価は、平成22年11月４日時点では112.52米ドルであり、時価総額の当社グループ持分（約19.9％）相当額は約2,240億円となっております。当社グループは引き続き、ウィン・リゾーツ社とのパートナーシップをより一層強化してまいります。

当社グループがフィリピンで手がけるカジノプロジェクト『マニラベイリゾーツ』につきましては、平成20年（2008年）のプロジェクト用地の取得に始まり、経済特区（ツーリズム・エコゾーン）への認定、外資100％企業によるカジノ事業の運営認可等法制面での問題をクリアし、今後プロジェクトを推進する上での条件が整いました。

今後は、地盤整備を行い、来年初旬を目処に本格的な建設を開始する予定です。

フィリピンは、大小合わせて7,000を超える島々からなり、未開発の自然も多く、周囲を海に囲まれた風光明媚な国です。当社グループはフィリピン最大の都市マニラにおいて、フィリピン政府の全面的な支持のもと、多数の旅行者を魅了するカジノリゾートの建設を行ってまいります。

２．その他の情報

（１）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

②法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

③一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第２四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

（２）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

・会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第１四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号　平成20年３月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号　平成20年３月31日）を適用しております。

これにより、当第２四半期連結累計期間の営業損失及び経常損失は５百万円増加し、税金等調整前四半期純損失は140百万円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は179百万円であります。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	当第２四半期連結会計期間末 （平成22年９月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成22年３月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,363	4,466
受取手形及び売掛金	3,921	2,861
有価証券	689	1,410
商品及び製品	1,949	1,272
仕掛品	1,514	1,707
原材料及び貯蔵品	21,573	23,551
その他	2,062	3,130
貸倒引当金	△24	△24
流動資産合計	38,049	38,375
固定資産		
有形固定資産		
土地	33,140	34,196
その他（純額）	8,543	10,079
有形固定資産合計	41,683	44,276
無形固定資産		
のれん	190	263
その他	229	241
無形固定資産合計	419	505
投資その他の資産		
投資有価証券	55,498	57,964
その他	6,049	5,849
貸倒引当金	△2,379	△2,354
投資その他の資産合計	59,167	61,459
固定資産合計	101,271	106,241
資産合計	139,321	144,616

（単位：百万円）

	当第２四半期連結会計期間末 （平成22年９月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成22年３月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,124	2,958
短期借入金	6,219	3,554
1年内償還予定の社債	400	400
未払法人税等	308	257
賞与引当金	181	179
その他	6,751	7,271
流動負債合計	16,986	14,621
固定負債		
社債	1,400	1,600
資産除去債務	180	－
その他	744	1,081
固定負債合計	2,325	2,681
負債合計	19,311	17,302
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,446	3,446
資本剰余金	7,503	7,503
利益剰余金	132,511	136,116
自己株式	△1,934	△1,933
株主資本合計	141,527	145,133
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1	4
為替換算調整勘定	△21,651	△17,958
評価・換算差額等合計	△21,649	△17,954
新株予約権	131	135
純資産合計	120,009	127,314
負債純資産合計	139,321	144,616

（２）四半期連結損益計算書
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）
売上高	20,220	11,491
売上原価	9,178	7,268
売上総利益	11,042	4,222
販売費及び一般管理費	7,598	6,622
営業利益又は営業損失（△）	3,443	△2,399
営業外収益		
受取利息	53	6
受取配当金	7	7
為替差益	143	6
持分法による投資利益	－	22
その他	76	34
営業外収益合計	281	76
営業外費用		
支払利息	520	125
持分法による投資損失	1,769	－
その他	22	16
営業外費用合計	2,313	142
経常利益又は経常損失（△）	1,411	△2,465
特別利益		
前期損益修正益	103	71
貸倒引当金戻入額	28	1
持分変動利益	－	317
その他	22	11
特別利益合計	153	402
特別損失		
前期損益修正損	3	－
持分変動損失	121	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	－	134
設計計画変更損失	－	1,046
その他	47	152
特別損失合計	173	1,334
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	1,392	△3,396
法人税、住民税及び事業税	37	422
法人税等還付税額	△58	△207
法人税等調整額	625	△5
法人税等合計	605	208
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	－	△3,605
四半期純利益又は四半期純損失（△）	787	△3,605

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（５）その他注記事項
・重要な後発事象
持分法適用関連会社による配当の実施について
当社の持分法適用関連会社であるウィン・リゾーツ社は、平成22年11月２日の取締役会において配当を行うことを決議いたしました。
①配当金の内容
・１株当たり配当金　　８米ドル
・配当基準日　　平成22年11月23日
・支払予定日　　平成22年12月７日
②当社の連結子会社の保有株式数
24,549,222株（平成22年11月４日現在）
③損益等に与える影響
第３四半期連結会計期間以降の損益に与える影響はありませんが、当社の連結子会社に支払われる配当により現金及び現金同等物が増加し、持分相当額が減少することとなります。